

## 同窓会による5回目の学生支援

令和4年より、コロナ禍における学生支援として、マスク・食品・学生協食券の配布を行いました。令和4年の初回は、親元を離れて自活する共同教育学部生の希望者が対象でしたが、それ以降は、共同教育学部生の希望者全てを対象として、食品・日用品・学生協食券を配布しました。

今年度も物価高における支援ということで、共同教育学部の希望者全てを対象として、食品・日用品・学生協食券を配布しました。

年々、学生に周知され好評のうちに実施されています。



### 学生からのアンケート結果

- ★とても明るく、優しく対応してくださってとてもうれしかったです。「良い先生になってね」「頑張っ  
てね」と声をかけてくださり、心が温かくなりました。  
ありがとうございました。
- ★同窓会の皆様の優しさがすごく心に沁みました。た  
いへん有り難いです！ありがとうございます！がん  
ばれます！
- ★ベースマネーのチャージ、とてもありがたいです！  
ティッシュもありがたいです！
- ★ご支援いただいてありがたいです。教員になって栃  
木の教育に貢献します！
- ★生活に必要なものがたくさん入っていてありがたい  
です。ありがとうございます。
- ★応援してもらえるので良い先生になれるように頑張  
ります！
- ★野菜高いので助かります！ありがとうございます♡
- ★1人暮らしなのでとても助かっています！前回の配  
布のものもありがたく使わせていただきました。
- ★ありがとうございます。またお願いします。
- ★1人暮らしにとってかなり支援になるもので、あり  
がたいです。
- ★ありがたすぎます。 等

### 目次

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ…	2	大学生生活奮闘中……………	8
同窓会から学生への支援……………	3	宇都宮大学共同教育学部同窓会について…	9
懐かしい学生の頃……………	4	定期総会の概況……………	10・11
現場からの声……………	5	歌会始に選ばれて……………	12
今に生きる……………	6・7	編集後記……………	12

# 同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ



## ご挨拶

宇都宮大学共同教育学部同窓会会長  
橋本和英

昨年度より会長を拝命しております橋本和英でございます。皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の症法上の位置付けが5類になって1年経過し、対応策が個人・事業者の判断となったことで、会合など少しずつ増やすことができました。皆様との交流の機会を再開できたことは、何物にも変えられない貴重なことと実感いたしました。

定期総会につきましても、共同教育学部の学部長でおられる加藤謙一様のご尽力により、本学部棟1階中央にある階段教室、現8 D11教室にて開催することができました。懐かしい学舎で実施できたことは感慨深いものがあり、本当にありがたく思いました。学部長加藤様には、定期総会に限ることなく、同窓会の活動に対し、多くの場面でご指導ご助言を頂戴しております。改めて深く感謝申し上げます。

さて、本会は、母校を支える活動として教員を目指す学生の皆さんへの応援を大きな柱の一つとしています。昨年度は、コロナ禍・物価高における支援として会員の皆様からお預かりしている会費を使わせていただき、レトルトのカレーやご飯・ポケットティッシュ・生協食堂で使える食券等のセットを7月と10月に、希望する共同教育学部の学生の皆さんに配ることができました。いずれも2日間で配る予定のところ、予定時刻前から同窓会事務室前の入り口に多くの学生の皆さんが並び、1日それも数時間で用意したセット全てを配ることができました。物価高が続いていることから、今年度も同様の支援を実施いたします。

さらに、本学部が設置実施している就職支援室や教員採用試験対策セミナーへの協力にも力を入れていきたいと考えておりますので、引き続き本会の活動にご理解ご協力をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



全国初 共同教育学部1期生を送り出して  
宇都宮大学共同教育学部学部長  
加藤謙一

日頃より共同教育学部へのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和6年3月に全国初の共同教育学部として、1期生を卒業させることができました。1期生の入学当初は、新型コロナ感染の流行時期と重なり、1年目は大学に入学できたのはわずか1日でした。初めて経験するオンライン授業は、学生のみならず、教職員も戸惑いと不安を抱えたスタートとなりました。現在ではコロナ禍以前の生活環境に戻りましたが、彼らが過ごした4年間は、筆舌に尽くし難いものであったと推察しております。しかし、この大学での経験を社会生活に活かしてもらいたいと願っています。

共同教育学部は、群馬大学との教育資源と連携・協働することにより、戦略的に学部運営を進めながら、幅広い教養と実践知に裏付けられた高い専門性とチャレンジ精神を持った教員を養成することを目指しております。これから少子化が進むことを考えますと、教員養成系学部は共同課程化や共同学部化していくことが予想されます。そういう意味では、本学部卒業生の動向は、今後、注目されると思います。

毎年、同窓会から教員採用試験対策として、論作文・個人面接・集団討論などのご指導をいただいております。おかげ様で令和5年度の教員採用試験合格率は79.1%で昨年度の68.7%から10.4ポイント増加し、過去7年間で最も高いものとなりました。臨任教員を含めた教員就職率も62.8%で、昨年度の59.8%から3ポイント増加しました。

現在の教員を取り巻く環境や社会的評価は必ずしも良いものではありません。しかし、教師は子どもたちの人生に影響を与え、成長を実感できるという、他では得がたい経験のできる職業でもあります。私たちは教師の魅力を伝え、一人でも多くの学生が教員になれるよう、全力で支援いたします。今後とも同窓会の皆様には変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「染まる」 美術分野2年 渡部 瑠菜



# 同窓会から学生への支援

共同教育学部の学生の就職に役立てるよう、  
同窓会員が支援



## 教員として活躍することを願って 就職セミナー指導員 小貫 敬子

幼い頃は遊び場、大学生活、今は散歩へと宇大が自宅近くということで論作文の添削を引き受けました。

学生が懸命に考え書いた論作文を、どのように添削するか毎回悩みましたが、対面指導の際に補足し話すようにしてきました。どの学生も向上心を持ち、指摘された箇所や不十分だった内容を自覚し、採用試験までに更に力を付けようという意欲を感じました。

時には、教師の仕事への不安も聞きましたが、子どもの成長を見る喜びや楽しさがあり、子どもと一緒に自分も成長できる職業であると話してきました。

今年度より、栃木県の小中学校の教員選考は、論分量がなくなり、個人面接が2回実施されることになりました。同窓会としては練習の場の充実を図り、学生が自信をもって面接に臨めるよう支援しています。多くの学生が教員として活躍することを願っています。

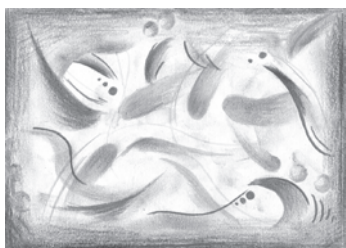


## 温かな支援を 就職支援室支援員 高島 利佳子

4月より就職支援室で教員を目指す学生の支援をしています。主な支援の内容としては、個人面接の練習や論作文の添削、教員採用試験の願書チェック、進路や悩み等の相談、過去問題集の貸し出し等です。

支援室を訪れる学生たちは、教員になりたいという強い思いで日々努力しています。先日も採用試験対策セミナーにて同窓会の先輩方による個人面接指導が行われましたが、学生たちの目は真剣で、皆一生懸命教育への思いを表現していました。そんな学生を温かく応援する同窓会の皆様の支援をとても心強く感じます。

支援室においても学生の思いに寄り添い、教員としての一步を安心して踏み出すことができるよう温かな支援をしていきたいと思えます。どの学生も自分のよさを存分に発揮し、現場で生き生きと活躍することができるよう心から願い、応援していきます。



「仰げば尊し」美術分野2年 大坂 実夢



## 頑張りに寄り添って 国語分野卒 松本 千幸

今年度から小学校教員として、明るく元気な子どもたちと充実した毎日を送っています。そんな今があるのは、就職支援室の先生方のご支援のおかげです。

私は、大学3年生から就職支援室を利用させていただきました。毎週の論作文添削では、頑張ったところを褒めてくださり、説得力のある作文にするための具体的なご助言をくださいました。それを生かし、学校でも、子どもに伝わるよう、簡潔に話すことを心がけています。個人面接や集団討論の演習は、共に試験を受ける仲間と学び合う機会となりました。本番が近づき、焦りや不安の中、親身に話を聞いてくださったおかげで、自信を持って試験に臨むことができました。先生方と仲間とともに学んだ日々は、私の宝物です。

先生方のように、一人一人の頑張りに寄り添い、励ますことのできる教師になれるよう頑張ります。



## 教員志望者は活用すべし 理科分野卒 高島 大翔

中学校に赴任してからおよそ3ヶ月が経ち、生徒たちと充実した日々をともにしています。こうして私が春から教員としての生活を送ることができているのは、同窓会の先生方の支援のおかげだと感じています。

私は特に就職支援室の中村先生と朝倉先生にお世話になりました。教員採用試験の対策として、個人面接、集団面接、論作文の3つを中心にご指導いただきました。試験が近づく一方で、全く論作文を書けず焦っていたのですが、先生方はご多忙な中、時間の合間を縫って手厚い支援をしてくださいました。就職支援室に行った際には、先生方の素敵な笑顔や応援から元気をもらい、精神的にも救われることも多々ありました。不安な気持ちを気軽に相談できるのも魅力の1つだと思います。教員を志す方はぜひ利用してみてください。夢をつかみとる最善の一手になると思います。

# 懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出



## 仲間との日々

上三川支部 今野 守

部活や学科の仲間と食事やカラオケに行ったり、馬鹿なことを言いながら麻雀やゲームを朝までやったりしていました。今となつては若気の至りと思いますが同時にとても懐かしい思い出です。また、アルバイトで家庭教師をしていました。当時は、夕飯付き、2時間5千円もいただける高額アルバイトが当たり前のようにできた時代でした。アルバイトをしてから帰宅し、そこから集まるので、夜の9時10時は当たり前で、そんなことばかりしていたので授業に身が入らなくなり、単位を落としてばかりでした。部活、バイト、遊びで毎日を過ごす日々が日常でした。特に疑問も持たず過ごしておりましたが、4年生になると部活を引退したことで講義にも参加し、なんとか4年で卒業できました。今でも宇大のキャンパスを訪れると、次々と思い出が頭に浮かんできます。



## 仲間達とのグルメ

日光支部 荻原 寛一

私は平成元年度入学生でした。元号が変わって間もなく最後の共通一次試験を受け、平成最初の入学生となった私は当時何か特別感があったのを覚えています。世の中は「バブル」という言葉が飛び交い、何かと活気があったような気がします。といつても自分の学生生活は平々凡々で、普通に講義を受け、仲間達といろいろなところへ昼食に繰り出していくといった毎日でした。当時の大学周辺は街中華、麻雀の役の名前で呼ばれていた食堂、おかずを選んでお弁当を詰めてくれる総菜屋、ちょっと車で足を運んだステーキチェーン店のランチタイム、お手頃価格で食べられるお店がたくさんありました。ある街中華のメニュー全制覇を競ったこともありました。今は町並みも変わり、「仲間達とのグルメ」を楽しんだお店もほとんどなくなってしまいましたが、何気ない日常を楽しめたことを今でも思い出します。



## 学生時代の思い出

国分寺支部 加藤 義勝

私が入学した頃の宇都宮大学は、本当に昭和を感じる風景が至る所にありました。先輩達の服装といえば、古びたジャンパーにGパン、そのGパンも、ファッションとしてではなく、穴が空いていたり、つぎ当てをして使ったりしていました。冬になり寒くなると、講義に出ている先輩の中には「はんてん」を着て勉強をしている人もいました。今思うと、実に懐かしい風景です。私が特に思い出に残っているのは、講義が始まる前、来ていない先輩を起こしに行くように教授に頼まれたことです。この単位を落とすと彼は卒業できない。夜勤のバイトをしていてきっとまだ寝ているという話に。結局、遊びに行ったことがある私が起こしに先輩の家に行き、先輩は無事卒業しました。教授と学生の仲がまるで家族のようで、温かさを感じる場面があったなと思います。今でも懐かしい思い出です。



「瞬き」美術分野2年 柏崎 裕香



## 芝生と鳥と理科棟と仲間たち

佐野支部 嶋田 政己

理科教師を目指して宇大入学。理科の先輩に声を掛けられ何となく探鳥会へ。学生課前の芝生は、夜風が心地よかった。大勢で輪になって、飲んで騒いで歌った。早朝の鬼怒川で、小鳥はスズメやツバメだけではないことに驚いた。この驚きを伝えたくて、公開探鳥会開催に力を入れた。県庁での打合せ、開催地でのポスター貼り、知識のインプット。参加者たちの笑顔は忘れられない。芝生での反省会はいつものことで、これもすっかりくせになった。

学部も年齢も様々な仲間がいる部室。よく行った日光、大洗。昼は鳥、夜は大騒ぎの夏合宿。夜を徹した学祭準備。下宿に雑魚寝、押入れ寝も懐かしい。

最後は、保田先生・山田先生にお世話になり、卒論・卒論の日々。楽しかったこと、赤面したこと、今語れないこと、その全てが今の自分をつくっている。

# 現場からの声

教職に就いて活躍している人の  
メッセージ



## 多くの人に支えられて

壬生支部 小林麻美

3年間の育児休暇から復帰し、4月から再スタートした教職の仕事。3年前との大きな違いは、帰宅後の過ごし方。持ち帰った仕事をしたり、趣味や休養に充てたりしていたが、今は子どもたち中心で動いている。まだまだ慣れない久しぶりの現場だが、どんなに忙しい毎日でも楽しく仕事と向き合うことができている。

復帰と同時の異動や、子育てとの両立など、不安要素がたくさんあった年度初め。それでも楽しいと感じられるのは、多くの人の支えがあってこそだと感じている。社会全体でみると教員の働く環境は、厳しいのかもしれない。でも、「そういう経験してきているから」「お互い様だから」という温かい言葉であふれている素敵な環境でもある。少しでも早く仕事に慣れ、今度は自分が支える立場になり、助け合える環境がこれからも続くようにしていきたい。



## 働きやすい職場に

大平支部 伊藤玲菜

今年で教員になって4年目になる。今では、学校の1年間の流れが分かり、先を読んで行動することや、子どもたちや保護者との関わり方が少しずつ分かるようになってきた。しかし、1年目の私は「私が担任でいいのか」「もっと子どもたちに寄り添った声掛けができたのではないかと」自問自答する日々だった。そんな私が、子どもたちと向き合い続けることができたのは、同僚の支えがあったからだ実感する。毎日放課後になると、主任や副主任の先生が声を掛けてくれ、話を聞いてくださった。自分の失敗談を明るく話してくださる同僚や励まし合える同期にも支えられた。子どもたちにとって教室が居心地の良い場所であることが求められるように、教員にとっても職員室が居心地の良い場所であることを願う。そのために私も同僚にとって支えでありたい。



## 特別支援学級担任として

野木支部 小曾根 綸乃

特別支援学級担任となり3年、児童の自立に向け、生きる力を育むために日々奮闘しています。

この3年で学んだことの一つは、児童の興味関心を生かして学習につなげることの大切さです。数字の読み書きができなかった児童がボーリングでの勝敗を決めるために、自分から倒れたピンを数えようとしていたり記録しようとしていたりすることがありました。「ボーリング」という好きな活動を通して、学習の必要性を児童自身が感じ、主体的に学びに向かうことができるようになったのです。そこから、たし算やひき算につなげることもできました。

普段は児童のできないことや苦手なことに目を向けて指導しがちですが、得意なこと、好きなことに焦点を当て伸ばしていく指導の重要性を感じました。今後も児童が学ぶ楽しさを感じ、豊かな人生を自分の力で切り拓いていけるよう、努力していきたいです。



## 教職の素晴らしさ

栃木支部 生澤 裕太

教職に就き、12年目を迎えました。とにかくがむしゃらに働いていた新規採用教員時代と比べると、様々な校務分掌を経験し、異動により職場環境の変化から対応力を身に付けたことで、教員としての資質が向上してきていることを実感しています。

「ミドルリーダーとしての自覚」をもつようになると多くの研修で言われるようになり、学級経営に熱量の比重を多く向けていたのが、だんだんと学年経営や組織マネジメントについて考えることが増え、今年は副主任という役職までいただきました。少し寂しい思いもある中、それでも教員として頑張れる理由は、生徒の笑顔があるからです。教室で、体育館で、校庭で、休み時間の廊下で、日々の生徒から元気をもらえます。年を重ねるごとに責任感が増す一方、やりがいも多く感じられる、本当に教職とは素敵な職業だと思います。



「COSMOS」美術分野2年 磯 陽彩



# 今に



## 夢はふくらんで

石橋支部 糸川 均  
昭和57年度卒

教職を定年退職後、そのままの流れで再任用教員として同じ下野市内の小学校に学級担任として勤め4年自に入りました。一度退職したとは言え、フルタイムで働いていると変わらない日常が続き、さて、どこで、自分に区切りをつけようかななどと考えている今日この頃です。日々の忙しさの中にも子供たちの笑顔に元気をもらっています。職場で最年長ですが、先生方から大切にされ居場所があり、働き甲斐を感じています。

そんな私ですが、完全退職後の夢は限りなくふくらんでいます。数年前に働きながらTCA（栃木県カウンセリング協会）で学び取得した公認心理師の資格を生かしたいとか、趣味の囲碁の棋力を高めて県大会に出場したい、30年以上学び続けていた英会話学習を海外旅行で試したい、最近始めた山歩き、トレッキングにもっと挑戦したいなどなど。

いずれにしても体は一つで、人生には限りがあるので、健康に気をつけながら、自分の夢を追いかけていきたいと考えています。傍らでいつも話し相手になり、励ましてくれた家族にも感謝しています。



## 新たな出会いに感謝

佐野支部 荒川 知子  
昭和54年度卒

退職後、社会教育指導員として公民館に3年間勤務しました。この経験は、学校しか勤めたことのない私にとって新たな学びもあり、その企画・運営に携わることで実に多くの人との出会いが得られました。

その後、町内の民生委員を担当することになりました。現職中は、自宅と学校との行き来が主で、恥ずかしながら町内に住んでいる方さえあまり知らず、人づきあいのない地域だと勝手に思い込んでいました。

今では、まちなかとはいえ小中学生の姿もなく、高齢者の方が多い町内です。高齢者の見守り対策で訪問をすると、皆さんが話し相手を求めていることが分かります。これまで一度も話をしたことがない方とも、会話を交わすようになりました。何度も足を運ぶうち

に、心を開いてくださる方もあり、それが嬉しくもあります。

早朝、我が家の庭の手入れをしていると、自然と近所の方や道行く人と挨拶を交わすようになりました。明らかに町内の方々との交流が広がってきています。

高齢者？ いいえ、私にとってまさしく人生経験豊かな先輩方で、日々学ぶことが多いです。こうした機会に恵まれ、出会いが広がったことにこそ、感謝をしています。



## 誰かの心に響く関わりを

小山支部 星野 朋子  
昭和60年度卒

2024年3月、教育現場を離れた。様々な人に出会い、支えていただき、貴重な経験をしながら38年を終えることができた。「歴史を創る場」にも、たたせていただいた。幸せなことだったと思う。

4月からは新たな職場で仕事をしている。自分の時間を自分でコントロールできる毎日が新鮮である。「自分が何をしたいのか」を考え、活動できる幸せを感じている。ただ、退職して3ヶ月であるから、「よし、これをやっていこう」ということはなかなか思いついていない。今までなんとなく続けてきたお稽古事に休みをなくして通ったり、コンサートや舞台芸術に足を運んだり、自分の気の向くままに何かを選んで毎日を過ごしている。「脳はいつまでも成長する」と何かに書いてあった。自分の心が穏やかにそしてどこかで成長していけるように生きていきたい。そして、日々の中で、「誰かの役に立つ・これまで自分がしてきたこと、今していることの中から何かを伝えるような人との関わり」を持てるような活動をしたいと考えている。



「ジャパニーズ宇〜太」美術分野2年 吉澤 有真

# 生きる

退職し、第二の人生を歩む人の今



## 林住りに思うこと

足利支部 鈴木一弘  
昭和57年度卒

38年の教員生活の後、市の児童家庭政策課に3年間勤務し、この春めでたく無職となった。今やっていることは、「孫の幼稚園送迎」車中での会話や歌がなかなか楽しい。「リハビリと体力づくり」ロードバイク25キロと坂道ダッシュが定着しつつある。「昼食と昼寝」なんて幸せなことだろう。「読書・書道・古典研究」学生教員時代からの未読書籍をなんとか読み切りたいと思っている。そして、自治会町内会の役割も一部担当しているところだ。

さて、これから世の中はいったいどのように変化していくのだろうか。感染症や天災・気象の影響は避けられないと思う。私としては、過去3度の入院手術の経験から、一病息災でありたいと切に思う。

古代インドでは、人生を4つの時期（学生期・家住期・林住期・遊行期）に分けて考えたという。林住期とは、社会人としての務めを終えた後、全ての人が迎える、最も輝かしい「第3の人生」のことだそう。

今後も妻との良い関係を保ちながら、ささやかに自己実現を図っていきたいと思う。ご当地足利は麦秋から田植えの季節を迎え、画眉鳥のさえずりが心地よい。



## 第二の職場へ

南那須支部 國安浩  
昭和59年度卒

令和4年3月で、37年間の教職生活に別れを告げました。今は公民館にて、生涯学習の推進や地域における社会教育活動の充実を目的とする「社会教育指導員」をしています。

私の主な仕事は、高齢者学級の企画と運営です。年に9～10回の講座を用意し、60～80代の方を募集するのです。講座の内容は、一般教養に関するもの、手芸や造形を行うもの、健康や安全に関するもの、音楽を楽しむもの、バスでの旅行など多岐にわたります。

また、いくら講座を用意しても、それが魅力的でなければ人は集まりません。どのような講座を実施したら良いのか悩むところが、この職の難しさであり、面白さでもあります。

さらに、学校で相手にするのは、子どもと保護者が

ほとんどでした。ですが、今の仕事では高齢者が対象なので、今までとは違ったコミュニケーションスキルが要求されると感じています。

この職に定年はありませんが、個人的には60代半ばあたりが働ける限界と感じます。それまで、参加者が満足できる講座を開ければと思う毎日です。



## 校歌の作詞

那須北支部 丑越薫  
昭和57年度卒

生まれて初めて、校歌の作詞をした。令和5年4月に開校した那須塩原市立箒根学園の校歌である。

- 一、青くすみわたる大空のもと  
箒根の大地に集い合う  
仲間とともに力をあわせ  
新しいページをつくっていこう  
笑顔の花が満開の  
一人一人が輝く箒根学園
- 二、高くそびえる高原山に  
未来の自分を映したい  
うれしいときも泣きたいときも  
となりに友のほほえみがある  
友達も自分も大切に  
一人一人が思いやる箒根学園
- 三、いつも変わらぬ箒の流れ  
今の君でいいよと語りかける  
いつか大好きなこのふるさとを  
支える力になっていきたい  
そのための今学ぶんだ  
一人一人が新しい自分を創る箒根学園

1番には皆で力を合わせて新しい学校を作っていくこと、2番には友達を思いやる心をもったこと、3番には今の自分を認めつつ、いつか大好きなふるさとを支える人材に成長すること、そんな思いを込めた。

私も微力ながらふるさとを支える人材になりたい。



「犬と宇～太」美術分野2年 佐野結夏

# 大学生生活奮闘中

共同教育学部の今  
がんばっている人の言葉



## 学びの促進に奮闘中

教育学研究科 教授

日野 圭子

私は現在、教育学研究科（教職大学院）の専任教員として、現職教員や学部卒の大学院生、学部生の学びをサポートしています。学ぶことは積極的な行為です。そこには、自分なりの問いを作り試行錯誤するプロセスがあります。そのプロセスを大切にするにはどんな授業や研修をしたらよいか、（ずっと）考えてきています。大切にしていることの1つは考えの交流です。教職大学院では、現職院生は校種も専門分野も異なります。学卒院生は、現場経験はこれからですがフレッシュな感性や視点を持っています。それぞれの関心や経験が違うため、同じ問題を考えていても様々な意見が出てきます。こうした場面を生かすことが、新たな視点を得る、自身の視点の省察を促すことに繋がると考えています。但し、交流の場を提供すればよいというわけでもなく、目的や対象、視点をどう設定したらよいか、どんな介入をしたらよいかなど、まだ分からないことが多いです。

ところで、私の専門分野は算数・数学教育です。自分の研究活動を振り返っても、様々な考えに出会い、意見をもらいながら、問いを考え試行錯誤をしてきたと思います。最近では、小学校下学年を対象に数学的な思考を育てる研究を行っており、他大学の研究者や小学校教員とともに、児童の思考を捉える枠組みを作ったり、授業をデザインしたりしています。メンバーと行うオンラインミーティングで、児童の思考に関わる具体的なデータをみて、意見を交換しあうことは刺激的です。学会で発表し、より様々な人からフィードバックを得ることも同様です。その一方で、そうした意見を、研究の進展にどう結び付けていくかは、やはり簡単ではありません。共通の関心をもつ仲間とともに、問いを練り合っています。

私は、多様な考えの中で問いを作り試行錯誤を行うこと、それによって自らの考えを進展させていくことに奮闘してきました。そして、現在もしています。学びの実際は一人一人違い、複雑できれいには進みませんが、できるだけそのプロセスを楽しみながら考え続けていきたいと思っています。



## 宇都宮大学での学び

社会専攻

阿部 航大

社会分野では社会教育学や関係する専門学問の方法を身に付けた学校教員を育てることを目的としており、哲学、歴史学、地理学など自分の興味に合わせた自由度の高い研究を行うことができます。私は大学生生活を通して、「自由」を得るということは同時に自分自身に対しての責任が生じるということを実感しました。どんな学問を研究し、どんな教師を目指すのかを考えていくうえで、日々の授業の中でヒントは多くありますが、常に問題意識を持ちながら生活することが必要です。社会分野では実際に身近な街を歩いて疑問を見つけたり、興味のある論文を読んだりすることによって知見を広げています。大学で何を学ぶことができるかは自分自身の行動次第だと思います。私は宇都宮大学での生活で、常に問題意識を持つ姿勢や幅広い視野を持つことを意識できるようになったと感じています。



## 先生という仕事

家政分野専攻

無州 莉子

教員になりたいという小学生の頃からの目標のために、共同教育学部に入学し、家政分野として家庭科教育について学んでいます。1年生の頃は、初等教育を中心に学習し、教育という大きく重く感じてしまうものを自分なりに受け止め、考えていました。2年生になり、教職ボランティアとして週に1回小学校に行くようになってから、自分の教育に対する考え方や感じ方が大きく変化しました。実際に子どもたちと関わり、先生と呼ばれる中で、自分がやるべきことが少しずつ分かってきた気がします。まだ大学で1年と少ししか教育について学んでいない私でも、子どもたちから見たら1人の先生です。そのことを大きく実感し、1人の先生として何ができるかを考えながら教職ボランティアに取り組んでいます。これからも自分の将来のために、学び続けます。



# 宇都宮大学共同教育学部同窓会について

宇都宮大学共同教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。令和2年度には、共同教育学部と学部名が新たになり、令和3年度から、共同教育学部同窓会としました。令和6年度で、148年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、本県教育の中心的な存在として活躍してきました。

同窓会では、ねらいを「母校の発展に寄与すると共に、会員相互の親睦と資質の向上を図る」としています。

活動内容は下記の通りです。

## 母校である宇都宮大学への協力・学生支援

- コロナ禍における学生支援事業（R4年度 2回実施）
- コロナ禍・物価高における学生支援事業（R5年度 2回実施）
- 物価高における学生支援事業（R6年度 2回実施予定）
- 入学・卒業時に、学生への記念品贈呈

- 教員採用試験対策セミナーへの支援
- 就職支援室への協力
- 災害時における対応（見舞金）
- 施設の新設・改修への協力
  - ・学生のサークル活動施設（コスモス）の新設（H17年度）
  - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（H18年度）
  - ・宇都宮大学旧講堂の改修（H19～22年度）
  - ・教育学部音楽棟の改修（H25～27年度）
- 宇都宮大学・共同教育学部への協力

## 同窓会員の親睦

- 総会（県・各支部）の開催
- 支部長・評議員会及び、支部長会等の会議の開催
- 現職会員と終身会員との話し合い・交流
- 会報（年1回）の配付
- 会員の慶弔に関する事業
- ホームカミングデーの協力

## 就職支援

共同教育学部の学生が、資質豊かな教員になるため、以下のような支援をしています。

今年度から栃木県教員採用試験二次の内容が変更になり、校種によっては論作文・集団討論がなくなり、面接が2回になりました。そこで面接指導を中心に宇都宮支部会員の皆様に指導していただきました。

### 1. 就職セミナー

教員採用試験対策春期セミナー（面接指導／4年生対象）

教員採用試験対策夏期セミナー（面接指導／4年生対象）

教員採用試験対策秋期セミナー（面接指導／3年生対象）

- 面接担当者：瓦井千尋・大野 薫・高梨敏朗・水越久夫・村上雅之・綱川芳孝・柏崎純一・石川宗子・橋本和英・渡邊昌子・小貫敬子・刀川恵子・中村ひろみ・戸部義則・大沢智恵子



### 2. 就職支援室

就職に関する全般の指導を常時行っています。

（月～金／10：20～16：20）

- 就職支援室指導員：朝倉真美・高島利佳子

### ●令和6年度に終身会員（退職者）になられた方

【宇都宮支部】 赤上純子・小野谷孝子・金井せつ子・

小菅智恵子・宮井由美・長谷川昌弘

【芳賀支部】 櫻井佳子・岩村康朗・小森幸子

【佐野支部】 島田悦男・立川公重・須藤孝浩・須藤誠治

【足利支部】 柴崎直美

【塩谷支部】 山田敏夫

【那須北支部】 富山 篤



就職セミナー支援風景

## 叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

◎春の叙勲	瓦井千尋 様 (宇都宮)	一木弘司 様 (芳賀)	高沢 伸 様 (野木)	清水 博 様 (足利)
◎高齢者叙勲	相賀哲郎 様 (宇都宮)	安斎藤雄 様 (宇都宮)	石下 真 様 (宇都宮)	石塚俊明 様 (宇都宮)
	大関達雄 様 (宇都宮)	菊地芳太郎 様 (宇都宮)	鈴木辰七郎 様 (宇都宮)	山吉泰夫 様 (宇都宮)
	福田恒男 様 (日光)	関沢 昇 様 (芳賀)	古山滋美 様 (芳賀)	若色秀行 様 (芳賀)
	片貝和雄 様 (足利)	栗田 坦 様 (塩谷)	塩澤啓代 様 (塩谷)	福田一郎 様 (塩谷)
	福田 敏 様 (塩谷)	福田安男 様 (塩谷)	加藤與士夫 様 (那須北)	五味淵範 様 (那須北)
	相馬 裕 様 (那須北)	塚原彦三郎 様 (那須北)	羽柴雅男 様 (那須北)	福田武徳 様 (那須北)
	荒井眞一 様 (南那須)	荒井八郎 様 (南那須)	大山賢一 様 (南那須)	小原沢一夫 様 (南那須)
	佐藤吉男 様 (南那須)	福澤邦夫 様 (南那須)	福澤吉英 様 (南那須)	星 厚 様 (南那須)

## 退任者への感謝状贈呈 お世話になりました

五味淵俊夫 様 (副会長)	稲垣和希 様 (副会長・石橋支部長)	新村幸江 様 (副会長)	大越浩子 様 (副会長) (ご逝去)
上岡尚子 様 (上三川支部長)	椎名 剛 様 (南河内支部長)	奥山雄宏 様 (西方支部長)	浅川邦彦 様 (日光支部長)
片岡康夫 様 (芳賀支部長)	菊地由美子 様 (都賀支部長)	加藤美鈴 様 (国分寺支部長)	亀田浩史 様 (大平支部長)
服部三晴 様 (野木支部長)	神宮司賢一郎 様 (藤岡支部長)	市場久美子 様 (岩舟支部長)	岩出 岳 様 (栃木支部長)
立川公重 様 (佐野支部長)	神林孝文 様 (足利支部長)	豊田 充 様 (那須北支部長)	田島弘行 様 (南那須支部長)

## 令和6年度同窓会役員・支部長名簿

### 【役員】

- 客 員：池田 宰・加藤謙一
- 顧 問：柴田 毅・松本展壽・増淵茂泰
- 会 長：橋本和英
- 副会長：大豆生田 将・加藤義勝・相ヶ瀬 浩  
高梨敏朗・間宮栄二・堀田由美子  
石川宗子・林田浩二・高橋重年
- 監 事：市岡正嗣・渡邊昌子
- 事務局：大沢智恵子・高尾亮子

### 【支部長】

宇都宮 橋本和英	上三川 今野 守
南河内 小林優子	西 方 草刈勇貴
日 光 荻原寛一	芳 賀 小林和男
都 賀 鈴木教益	壬 生 北見 修
石 橋 田波千紘	国分寺 加藤義勝
大 平 新村 勲	野 木 吉田玲子
藤 岡 柿沼利幸	岩 舟 大橋孝江
小 山 白石成世	栃 木 木村信孝
佐 野 嶋田政己	足 利 岡崎佐季子
塩 谷 五味淵俊夫	那須北 小松隆夫
南那須 相ヶ瀬 浩	



会長挨拶



大学歌斉唱



学部長挨拶



相ヶ瀬議長による議事進行



退任者代表挨拶 (五味淵俊夫副会長)



## 卒業生の古橋正好さん

令和6年1月19日「歌会始の儀」に参加

おめでとうございます！

### 歌会始に選ばれて

「」が手で漉きたる和紙の証書手に六年生は卒業となる」

(お題「和」令和六年宮中歌会始入選歌)



短歌は、若い頃から興味、関心がありましたが、特に強く心を引かれたのは、宇都宮大学学芸学部の入学試験発表の日でした。母は胃がんの手術後の退院間もない時で、その日掲示板に受験番号を確認しほっとしていると、知人が母の容態が急変したので迎えに来たこと、知人のオート三輪に自転車を載せ、帰宅する途上、高等学校で学んだ齊藤茂吉が母を詠んだ「赤光」の「みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとそだにいそげる」など数首が胸に迫ってきました。

帰宅後病床の母に合格を報告すると、苦しい息遣いの中にも安らいだ顔になったものの、余命幾許も無い母を悲しませまいとして、合格と偽っているのだろうか、そのようにさえも見えました。二日後、合格通知が郵送され、

母に見せることができ、安堵した面立ちは今も脳裏を離れません。それから二時間後、母は帰らぬ人となりました。

母との辛い思い出とともにスタートした大學生活でしたが、立派な恩師や良き友人にも恵まれ、有意義な四年間を過ごすことが出来ました。

卒業後、教員を定年まで勤め、その後町の教育長や自治会連合会長などを務め、気が付くと八〇歳になっていました。これまでの己の人生を振り返り、行く末を見つめようと、短歌を独学ですが継続的に詠み始めました。それ以来、毎年宮中歌会始に応募し、今回、図らずも入選の榮に浴することができました。

歌暦の乏しい私が、このような僥倖に恵まれましたのも、母校で学んだお陰と感謝しているところです。



私たちの大先輩である古橋正好さんが令和6年1月19日の歌会始に参加されました。同窓会会報に原稿をお願いしたところ、お忙しい中にもかかわらず、執筆を快く引き受けてくださり、ありがたいことでした。私たちも「もう遅い」などと言わず、いくつになっても好きなことに挑戦しなくてはと勇気をいただきました。特集記事をご覧ください。

令和元年127号から同窓会会報編集に携わってくださった、大越浩子さんがご逝去されました。大越さんにはたいへんお世話になり、言葉の使い方など、細かく気を配っていただきました。126号には、「今日もウォーキング」と題して、歩く楽しさについてふれた文をよせてくださいました。ご冥福をお祈り致します。

今話題の朝ドラ「虎に翼」に、宇都宮大学の講堂が寅子たちの明律大学の講堂として登場しました。ちょっとうれしいですね。

お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。

【編集委員】石川宗子・小林純子・徳永幸子・大沢智恵子・高尾亮子